

第2学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「ていねいに かんさつして、きろくしよう」 教材名「かんさつ名人に なろう」

2 単元の目標

身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（〔知識及び技能〕(1)オ）

経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。（B(1)ア）

観察の観点を決め、実際に確かめたことを文章の材料にする学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）	①観察の観点を決め、実際に確かめたことを文章の材料にする学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

観察の観点を決め、実際に確かめたことを文章の材料にする。この教材では、観察の事実と感想を分けた記録文を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

実物をもう一度見られる時間を設ける。比べる基準は実物で確かめ、測定していない数値を補わない。想定する難しさは、感想だけを書く、見ていない特徴を図鑑から写して観察結果とする。評価では、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしているかを、観察の事実と感想を分けた記録文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全10時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 単元の終わりに残す記録を確かめ、学習の見通しをもつ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～5	○学校で観察できる物を選び、形・色・大きさ・動きなどを見る。必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確かめる活動）
第3次	6～9 （本時）	○学校で観察できる物を選び、形・色・大きさ・動きなどを見る。観察した事実と感じたことを区別して記録し、伝えたい特徴に必要な材料を選んで書く。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	10	○読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導 (6/10)

(1) 本時の目標

経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。(B(1)ア)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「その様子を見ていない人に伝えるには、何を詳しく確かめますか」 【めあて】観察の観点を決め、実際に確かめたことを文章の材料にする。 〈予想される児童の反応〉 ・大きいだけではどれくらいか伝わりにくい。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「その様子を見ていない人に伝えるには、何を詳しく確かめますか」 学校で観察できる物を選び、形・色・大きさ・動きなどを見る。観察した事実と感じたことを区別して記録し、伝えたい特徴に必要な材料を選んで書く。 読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・大きいだけではどれくらいか伝わりにくい。 ・前に見た時と変わった場所がある。	実物をもう一度見られる時間を設ける。 比べる基準は実物で確かめ、測定していない数値を補わない。 想定する難しさ：感想だけを書く、見ていない特徴を図鑑から写して観察結果とする。 評価では、経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしているかを、観察の事実と感想を分けた記録文と活動中の発言・操作から確かめる。 作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。 (発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 観察の事実と感想を分けた記録文を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・前に見た時と変わった場所がある。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「その様子を見ていない人に伝えるには、何を詳しく確かめますか」。中央は、観察の事実と感想を分けた記録文に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

